

**「駅派出検査体制等の見直しについて」 7月15日に提案を受ける！****○概要（提案経緯）**

グループ経営ビジョン「勇翔2034」の実現を目指し、当たり前を超えて価値創造していくために、引き続き社員の働きがいを創出し、社員と当社グループの持続的な成長につなげる必要がある。駅派出検査については、車両不具合への迅速な対応により、安全・安定輸送を支える役割を担ってきたところであるが、取り巻く環境を踏まえ、これまでの対応レベルを維持しつつ、社員の活躍フィールドを拡大するため、駅派出検査体制等の見直しを実施する。

○対象箇所および実施内容について**①東京総合車両センター 赤羽派出所**

実施時期：2025年10月1日

一般▲2テ

赤羽派出所の解消(廃止)を行う。実施日以降は、近隣の派出検査と車両センターで本線対応を受け持つ。

②東京総合車両センター 東京派出所・新宿派出所

実施時期：2025年11月1日

一般▲4テ／+4日

東京総合車両センター本所の計画科、および施工科事務所の業務と融合を行う（現在の品川派出所と同様）

③松戸車両センター 我孫子ホーム検査

実施時期：2025年10月1日

一般▲2日

本所業務および我孫子派出(電留)の業務と融合を行う。

○提案時の主な質疑**① 東京総合車両センター 赤羽派出所の解消(廃止)に関して**

組合) 体制を解消する根拠は何か？ また、現状の作業内容の特徴は何か？

会社) 都心の派出検査としては出動件数が少ないため見直す。折返し列車が少なく、主に検査添乗を行ってきた。

組合) 赤羽駅付近での車両対応の考え方はどうなるのか？ さいたま車セや尾久車セは線区や車種の差がある。

また、山手線以北の大動脈である高崎線・宇都宮線に即応できる派出が、大宮だけとなる懸念がある。

会社) 近隣の東京、新宿、大宮(応急処置当番)の派出が対応する。大宮は当番に限らず増援もできると考える。

踏切事故等の重い事象は車セ本区も出動する。トイレ等の軽微な不具合については、乗務員でも対応できる。

組合) 赤羽派出は本線対応のレベルアップを目的とした、使命を持った派出として設立した経緯があるはずだ。

会社) 2006年に首都圏輸送障害プロジェクトの一環で設立した。車両の変化などもあり、使命は果たした。

② 東京総合車両センター 東京派出所・新宿派出所の体制見直しについて

組合) 品川派出所のように、フレックスの組み合わせによる居流し形態の体制となるのか？

会社) 品川派出と同様である。2名体制で遅・早のフレックスの組み合わせとする。出出勤も現地(東京・新宿)となる。

まとまった手待ち時間で業務を進めることが期待される。元職場や通勤も鑑みて担務を担ってもらう。

組合) 計画科等から新たに東京、新宿の各派出を担う方の教育の考え方と、担務の考え方はどうするのか？

会社) これまで同様に、新規担務者に対しては3日程度の座学と、現車見学を行う考えである。現在品川派出所を担える方に転換教育をして東京や新宿が担えるようにしていく。担務する派出は1人1箇所始めていく。

組合) 東京派出所、新宿派出所それぞれで対応の特徴がある。融合者だけで対応できるのか？

会社) NEX、房総特急、中央特急など対応に特徴がある。組むペアについても配慮はするつもりである。

③ 松戸車両センター 我孫子ホーム検査の体制見直しについて

組合) 一般▲2となっているが、我孫子ホーム検査と、我孫子電留の体制がどのように変更となるのか？

会社) ホーム検査の体制は一般2テで変わらないが、日中帯は我孫子電留に移動して業務となる。一般▲2は本区の一部の臨時修繕や計画業務を、我孫子電留でホーム検査担務者が担うための減である。我孫子電留の体制は変わらず、管理1テ＋一般1テである。

組合) 本区のどのような業務を電留に移管する考えか。

会社) 運用や統計などの業務を検討している。留置車両の多さを生かし電池類の計画取替なども考えている。

組合) ホーム検査が電留にいるときに本線対応が発生した場合はどうするのか？

会社) 構内副長の指示となるが、自転車やタクシー等、タクシー等で現地へ向かって対応することとなる。

駅派出検査で培った安全・安定輸送の判断力・応用力をさらに高める施策にしよう！